

**平成28年度 事業報告**  
平成28年4月1日～平成29年3月31日

**1、事業実施の報告**

**○だじょうぶらしい独自事業の立ち上げ～支援の必要な乳幼児の預かり・保育「キッズルーム」**

認定取得から丸一年が経ちました。「子どもの貧困」の課題が社会的に注目を集める中、多くの方から寄付や物品提供をいただくことで、より柔軟に親子に寄り添う「だじょうぶ」らしい事業を実施する基盤が整いつつあります。その事業として、7月に「キッズルーム」を立ち上げました。保育園などの所属が無く、家庭だけでは十分な養育が得られない乳幼児を、保育園などにつなぎ入園するまでの間、一時的に保育する事業です。有資格職員の確保に苦勞し、非常勤で保育士と幼稚園教諭を雇用するにとどまり、小規模無認可保育施設としての届け出は29年4月に予定している常勤の保育士雇用を待って行います。立ち上げ前から乳幼児の預かりのニーズは上がっており、月・水・金の週3回を基本として開所、保育を行っています。やってみてわかったことですが、一度に受け入れられる子どもの数も3人までが適正と感じています。ニーズはそれ以上ありますし、藤原地区など遠方からの乳児の送迎リスクを考えると、1か所だけではすべてのニーズに対応するのは難しいと感じています。

**○母子の居場所をより良いものにする取り組み**

母子の居場所「ひだまり」は「Your Place」と「高德」との2か所を運営しています。当初、利用が安定せず、子どもの利用が無くなってしまいう日もあった「高德」ですが、比較的送迎しやすい豊岡地区や大沢・塩野室地区の子どもをそちらで預かることで安定して開所できるようになりました。子ども同士の相性で利用場所を選ぶ場合もあり、送迎が入り組んでいるところが課題と言えるかもしれません。子ども対応に関しては、「休日外遊び連れ出し」というメニューを持ったことと、日常的に外遊びを増やしたことで、より「体験」という要素が強い遊びができるようになりました。また、コミュニケーション能力の向上などを期待してボードゲームも取り入れました。「ひだまり」をより良い居場所とするため、これまで柱としてきた「受け止める」対応に加える形で、色々なことを取り入れ試行錯誤を始めたところです。

**○社会的課題の解決に向けて～ファンドレイズ(寄付集め)への取り組み**

子どもの貧困の課題が社会的に注目を集めています。しかし、私たちが関わる子どもの現状を講演会等でお話しすると、「今の日本にそんな子がいるの!？」と驚きをもって受け止められることが多く、まだまだ一般に認知はされていない印象です。虐待や貧困など子どもを取り巻く社会的課題を解決するためには、目の前の子どもを救う活動とそうした課題を広く知っていただく活動が必要と感じています。昨年のボランティア説明会に続く形で、もっと支援者(理解者)のすそ野を広げようと、「子どもの貧困撃退のチャリティー サンタdeラン」という合同寄付イベントに参加しました。だじょうぶの為に寄付を集めてくださった7人のサンタさんとともに寄付集めに取り組み、100人以上の方から寄付をいただくことができました。その中で今回初めてだじょうぶに寄付した(寄付イベントに参加した)方が44人にもなります。新たにそれだけの方に課題を知っていただき、そして寄付という形で課題解決に参加いただけたのは大きな成果だと考えています。

## 2、事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

#### ①虐待防止・発見のための相談事業

事業内容	日時	実施場所	回数	支出額
24 時間対応の相談窓口を開設し、電話や面談による相談事業を実施する。	毎日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日光市家庭児童相談室</li> <li>・子どもと親の相談室</li> </ul>	随時	9,974,243
	<p><b>○日光市家庭児童相談室(子どもと親の相談室)</b></p> <p>日光市が設置する家庭児童相談室の相談員 2 人分相当業務の委託を受け、3 人の職員を配置し、電話・来所・訪問による相談対応に従事、受理援助方針会議への参加等行った。</p> <p>この相談室がほとんどのケースの窓口となっている。ここを核に、だいじょうぶが実施する育児や家事の訪問支援事業や母子の居場所「Your Place ひだまり」、「高德ひだまり」、支援の必要な乳幼児の保育施設「キッズルーム」、母子のステップハウスなど、親と子に寄り添う様々な支援へのつながりがなされる。相談室にだいじょうぶの職員がいるため、こうした支援へのつながりがスムーズとなり、また支援の現場で見えてくる情報の相談室へのフィードバックもスムーズに行える。日光市側のだいじょうぶの活動への理解が進み、いい形で協働できている。</p> <p>家庭児童相談室とは別に、だいじょうぶ独自の相談室「子どもと親の相談室」を設置、相談員を配置し、対象の年齢などの制約で市の相談の枠に収まらないケースについて相談対応を行っている。</p> <p>&lt;家庭児童相談室に関わる主な会議等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談室援助方針会議 毎週 1 回 <ul style="list-style-type: none"> <li>+虐待通告があった場合はその都度緊急受理会議</li> </ul> </li> <li>・要保護児童対策地域協議会代表者会議 年 2 回 <ul style="list-style-type: none"> <li>〃 実務者会議 月 1 回</li> </ul> </li> <li>・その他、関係機関との個別ケース検討会議出席 随時</li> </ul> <p><b>○土日休日・時間外等相談対応</b></p> <p>土日休日の 24 時間と平日夜間に受けた相談で、子どもと親の相談室又は転送電話にて対応している。平日昼間の相談対応が充実したため、実績は減少傾向にある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電話相談 545 回(前年 712 回)</li> <li>・来所相談 3 回(前年 6 回)</li> <li>・訪問相談 10 回(前年 15 回)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;"> <b>合計 558 回(前年 733 回)</b> </div>			

## ②虐待されている子どもの保護に関する事業

事業内容	日時	実施場所	件数	支出額
ショートステイ事業の実施	実施しなかった。			0
	実施内容			
	平成26年度当初の県からの指導により、国の補助を受けてのショートステイの委託先が児童養護施設等限られた機関となり、だじょうぶがショートステイの委託を受けることは無くなった。必要性に応じて自主事業として対応しているが、今年度は対象となるケースはなかった。			

## ③虐待防止のための啓発事業

事業内容	実施内容	支出額
児童虐待をテーマとした講演会や研修会の企画と運営、講師派遣、等	<p>○子育て応援セミナー（日光市委託事業） ～子どもを知り、自分を知ることで楽な子育てを学ぶ～ 12月9日/2月21日 地域子育て支援センターにて 楽な子育てを学ぶことで、虐待を未然に防止するために子育て応援セミナーを実施した。</p> <p>○CARE(ケア)体験会（日光市委託事業） 2月17日 日光市生きがいセンター会議室にて 職員向け研修に一般参加者を加える形で行った。CARE（Child-Adult Relationship Enhancement）はアメリカで開発された子どもと大人の絆を深めるプログラム。支援者が子どもの主導権を大事にしながらかかわることで、子どもの支援者への印象を良くし、関係が良くなった上に子どもの問題行動が減っていくという手法。居場所やキッズルームでの子ども対応の質を高めるために実施した。大人がつい口癖になっている「ダメ」、「やめて」、「どうして？」をなるべく使わないように」という点など、頭ではわかっているけれど実践が難しい点もあり、職員間で今後ある程度の訓練が必要と感じている。</p> <p>○子どもの育ちを応援するボランティア説明会 7月2日 日光市家庭児童相談室にて:参加者1人/従事者2人 7月10日 宇都宮大学にて:参加者6人/従事者2人 地域に「子どもの育ちを応援する仲間」を増やして、子どもの困難な状況を地域で改善することを目的とした人材育成の取り組み。広報に力を入れられず2日間で7人が参加するにとどまり、ボランティアの活動登録には至らなかった。</p>	117,621

<p>児童虐待をテーマとした講演会や研修会の企画と運営、講師派遣、等</p>	<p>○講師派遣・・・計 31 回</p> <p>平成 26 年から社会的に注目され出した「子どもの貧困問題」だが、平成 28 年度にはその<b>具体的な対策としての「子ども食堂」</b>に焦点が当たった。「子ども食堂」、「子どもの貧困」をテーマとした全国キャラバンシンポジウムへの依頼をいくつか受けたことが特徴的であった。<b>全国での取り組みの広がり</b>が感じられた。他でも、<b>貧困の中にいる子どもに具体的にどう関わるか</b>に焦点を当てた講演への派遣依頼が増えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6 月 14 日、他 栃木県内各地の主任児童委員研修</li> <li>・ 7 月 20 日、他 日光創新塾「地域課題紹介」 &amp; 企画アドバイザー</li> <li>・ 9 月 3 日 小山市 9 条の会「貧困の中の子どもたち」</li> <li>・ 10 月 16 日 町田市「支援を必要とする子どもたちに 私たちができること」</li> <li>・ 10 月 27 日 宇都宮共和短期大学にて授業</li> <li>・ 11 月 16 日 <b>「広がれこども食堂の輪！」全国ツアー</b> in とちぎ分科会担当</li> <li>・ 12 月 17 日 <b>子どもの貧困全国キャラバン in とちぎ</b></li> <li>・ 1 月 15 日 <b>子ども食堂サミット(東京)</b></li> <li>・ 2 月 7 日 下野市人権講座「子どもの貧困問題に対する理解」</li> <li>…他</li> </ul> <p>○子ども虐待防止ネットワークとちぎ</p> <p>団体として参画する「子ども虐待防止ネットワークとちぎ」の一員として、毎年恒例のイベント<b>「子ども虐待をなくそう！県民のつどい」</b>を企画、実施した。平成 28 年度は、「<b>子どもの居場所づくり事業を考える</b>」と題して、「日雇い労働者の街」と呼ばれてきた大阪市の釜ヶ崎で 38 年にわたって困難の渦中にある子どもに寄り添い「居場所」を提供してきた「こどもの里」を描いたドキュメンタリー<b>映画「さとにきたらええやん」</b>の<b>上映</b>と、同ネットワーク代表の福田雅章氏をコーディネーターに、子ども食堂や若者の中間就労の場を運営する若年者支援機構代表理事の中野謙作氏、宇都宮でファミリーホームを運営する「はなの家」ホーム長の石川浩子氏、県内 2 か所目となる児童家庭支援センターちゅうりっぷ相談支援員の片桐洋史氏をパネラーに<b>シンポジウムを開催</b>した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 11 月 3 日「第 7 回 子ども虐待をなくそう！県民の集い」開催 場所：宇都宮市東市民活動センター</li> </ul> <p style="text-align: right;">5 人で従事</p>	
--	---	--

児童虐待をテーマとした講演会や研修会の企画と運営、講師派遣、等

○視察&見学受け入れ・・・計 38 回

子どもの貧困問題への関心が高まり、県内各地で子ども食堂が立ち上がるなど、取り組みが広がる中で、県内の市町の民生委員児童委員の視察見学が増えている。

- ・5月11日 日光市生活福祉課見学受け入れ 3人
- ・8月23日 あしかが子どもの笑顔ネット見学受け入れ 8人
- ・9月2日 小山市役所子育て家庭支援課見学受け入れ 18人
- ・10月21日 栃木県各市町家庭児童相談員研修見学受け入れ 9人
- ・11月2日 小山市つばさの会見学受け入れ 12人
- ・2月14日 上都賀教育事務所視察受け入れ 10人
- その他、県内各市町民生委員児童委員の見学 6回

○実習生受け入れ・・・計 3 人

- ・3月7日 国際医療福祉大学から 2人
- ・6月2~10 獨協医科大学から 1人

○新聞・テレビ取材・・・計 15 回

- |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|
| ・下野新聞 | 計 5 回 | ・朝日新聞 | 計 2 回 |
| ・東京新聞 | 計 2 回 | ・NHK  | 1 回   |
| …他    |       |       |       |

○新聞等メディア掲載

- ・5月8日 百万人の福音6月号特集に理事長掲載
- ・5月13日 日経DUAL (WEB)  
「働くパパとママに役立つ情報サイト」掲載
- ・6月18日 東京新聞栃木版「子どもの貧困に支援を」掲載
- ・7月10日 朝日新聞にボランティア募集記事掲載
- ・7月20日~5回連載 下野新聞「しもつけ随想」理事長執筆
- ・8月14日、1月29日、2月10日、3月5日  
下野新聞子どもと貧困関連記事にひだまり等掲載
- ・9月3日 朝日新聞に MYTREE へ°アレンツ°プログラム参加者募集記事掲載
- ・11月17、24日、12月1日  
ニッポン放送「阿部亮の NGO 世界一周」理事長出演

④児童虐待防止に関する研究事業及び政策提言

事業名	実施内容	支出額
虐待してしまう親向けの回復プログラムの開発・実施	<p>○MY TREE ペアレンツ・プログラム</p> <p>5回目のプログラム実施。参加者が少ないとグループ運営が難しくなるため、参加者の募集に時間をかけられるよう実施日程をここ数年9月からとしている。</p> <p>よりプログラムに合った参加者を紹介いただけるよう、県内3か所の児童相談所を訪れ、児童相談所職員にプログラムの説明を行ったが、児童相談所からの紹介は2人にとどまった。</p> <p>チラシや新聞を見て参加した方と合わせ、合計6人でスタートした。全員が夫婦であり、子どもを分離したケースも無く、同じような家庭環境にあるため他者の話に共感しやすかったようで、良いプログラム運営ができた。</p> <p>昨年も課題に挙げていたが、現在いる3人のファシリテーターの誰か1人が欠けてもプログラムの実施ができなくなってしまうので、今後新たにファシリテーターを育成する必要があるだろう。</p> <p>・9月6日～3月14日（全13回+3回の面接と同窓会） 場所：とちぎ福祉プラザ（宇都宮） 参加者6人／従事者3人</p> <p>&lt;関連研修&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月8～10日 第三世代行動療法研修（大阪にて）1人</li> <li>・8月6日 全体スーパービジョン（大阪にて）1人</li> <li>・2月11日 コメント返し研修（埼玉にて）2人</li> </ul>	1,242,545

⑤子どもが健全に育つ環境づくりを支援する事業

事業内容	日時	実施場所	回数	支出額
養育困難家庭への訪問支援	毎日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケースのご家庭等</li> <li>・Your Place&amp;高徳ひだまり</li> </ul>	随時	1,618,904
	事業実施内容			
	<p>○母親や子どもに寄り添い、訪問支援事業を行う</p> <p>概ね3歳以上で保育園等に所属のある未就学児童の託児（ひだまり等利用）と母子の通院等の同行支援が中心。</p>			

<p>養育困難家庭への訪問支援</p>	<p>今年度からキッズルームが始まったので、所属のない3歳以下の乳幼児の託児・保育はキッズルームの実績として集計している。昨年の504件から実績がほぼ半減しているのはそのため。</p> <p>家庭内に入る掃除や家事援助が少ないのは、潜在するニーズは多いものの支援の受け手に他人を家に入れることへの抵抗感があるためと思われる。様々な支援を通して、家に入れてもらえるような人間関係づくりに努め、家庭環境の改善につなげる必要がある。</p> <p><b>支援件数 291回(内、委託 216回)</b>  <b>支援内訳</b>  <b>①育児支援(託児等):105件 ②家事援助 :5件</b>  <b>③送迎・同行支援: 167件 ④支援家電設置:4件</b></p> <p>他に、生活困窮家庭の子を対象として、地元美容室KAZUの協力で無料で散髪支援を実施できている。</p> <p>4/7 1人 4/8 1人 5/30 1人 3/2 2人</p>	
---------------------	--	--

事業内容	日 時	実 施 場 所	従事者数	支出額
<p>支援の必要な乳幼児の一時保育事業 キッズルーム</p>	<p>7月21日開所 以降 月・水・金</p>	<p>・Your Place ひだまり ・高徳ひだまり</p>	<p>職員 2.8人/日 ボランティア延べ4人</p>	<p>3,674,479</p>
<p>若年出産の母子のケースや母の養育力が乏しかったり、子でくさんで子どもを養育しきれないケースなど、12ケース14人の子が利用した。7ケース8人の子はSOSに対応する形で不定期で預かり、5ケース6人の子が週1~3回定期的に利用した。定期的に利用した子どものうち、年度途中で1人、新年度で4人が保育園などに入園し卒業、残った1人は利用を継続しながら、保育園などの所属を探していく。</p> <p>子どもの成長に乳児期の支援が有効という話がよくされるが、まさにそれを実感する、子どもの成長を見せつけられる機会が多かった。顕著な例を紹介すると、家庭では痛みや空腹を訴えてもかまってもらえなかったことで無表情になり声も発しなかった子が、数か月の関わりで職員の声掛けに笑顔で答えたり、音楽に合わせて体をゆすったり、ご飯が足りないと怒ったりと成長を見せている。</p> <p><b>保育実績 開所 130日</b>  <b>預かり乳幼児数 延べ249人(内230人が委託)</b></p>				

事業内容	日 時	実 施 場 所	従事者数	支出額
支援の必要な子どもと母子の居場所事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月～土</li> <li>・水～月</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Your Place ひだまり</li> <li>・高德ひだまり</li> </ul>	職員 2.9 人／日 ボランティア延べ 100 人	16,112,868
	事 業 実 施 内 容			
	<p><b>○母子の居場所「Your Place ひだまり」、「高德ひだまり」</b></p> <p>Your Place ひだまりは 250 日開所、高德ひだまりは 222 日開所、それぞれ 1 日平均 3 人が利用した。毎日どちらかが開所できるように休所の曜日はずらしている。就学児童・生徒の実績で、<b>委託ケースは 25 世帯 36 人、延べ 1392 人</b>が居場所を利用、欠けている養育を補った。他に<b>独自事業として</b>、高校生や緊急にニーズが上がり制度の手続きが間に合わない小学生、精神疾患の若者などを中心に<b>延べ 38 人</b>が利用した。</p> <p>対象は小学生がほとんどで、平日は放課後に学校や学童までお迎えに行き、預かる。ひだまりは、利用する子が家や学校で寂しい思いをしたり辛い思いをしているので、せめてここでは<b>安心して過ごせる、素の自分を出せる「居場所」</b>でありたいと考えている。</p> <p>ひだまりの活動は<b>生活支援と遊びの支援</b>が大きな柱となる。</p> <p>生活面で言うと、<b>入浴と衣類の洗濯、食事、宿題の支援</b>を行っている。その子の状況と家庭状況に応じて重視する支援内容を決めているが、ほとんど野放しだった子もいて、当たり前の生活習慣を身につけてもらうのにはかなり時間がかかる。どうしても子どもたちは「遊びたい」気持ちが先に立ってしまい、特に入浴と宿題の促しには苦勞している。</p> <p>遊びはひだまりでの室内遊びに加え、職員配置や時間が許せば、河原や公園等に連れ出し、のびのび遊ばせることを心がけている。言葉のつたない子どもたちは、ちゃんと話を聞いてもらうだけでなく、<b>一緒に本気で遊んでもらえることで自分が受け止められていると感じる</b>とも言われている。子どもを受け止める支援の一環として「遊び」を重視していきたい。また最近では、室内遊びの選択肢として、<b>大人が子どもと対等に遊べて、自然に対話の訓練にもなるボードゲームを取り入れ始めた</b>。一般的な「人生ゲーム」、「オセロ」などに加え、「ダブル」や「文字びったん」などを取り入れている。</p> <p>また、適切に感情表現ができるようになって欲しいことと、夕食後遊んだ後、帰宅までの間に一呼吸置き落ち着いた気持ちで帰宅してもらおうため、「帰りの会」と称して「表情カード」を使った振り返りの時間を設けている。</p>			



…母子の居場所「Your Place ひだまり」、「高德ひだまり」の続き

### ○外遊び連れ出し支援

ひだまり利用の子の中で、特に休日に子どもだけで家で過ごすことが多く体験の乏しいケースを対象として、休日外遊び連れ出し支援を行っている。1 ケースを対象に 6 回実施、自然の中でのびのびと過ごすことができている。ボランティアの関わりも多く、多様な大人と触れ合える機会ともなっている。

場所：日光霧降アイスアリーナ、大谷川河川敷、等  
日時：4/4、6/5、9/25、10/29、11/27、12/10

### ○週末自然塾

NPO法人国際自然大学校日光霧降校が主催する「週末自然塾」という週末の自然体験プログラムに、ひだまりに通う子を参加させていただいている。山登りや、雪遊びなど、自然の中でチャレンジする体験ができている。対象として選んだ 2 人が 3 日間活動に参加した。

場所：NPO法人国際自然大学校日光霧降校近隣のフィールド  
日時：12月10日：2人　1月7~8日：1泊2日2人

### ○いついつ日光 夏・冬・春キャンプ

NPO法人国際自然大学校日光霧降校が主催する「いついつ日光」というキャンプに、ひだまりに通う子を参加させていただいている。普段と違う環境、人間関係の中で過ごすことができ、貴重な経験ができている。対象者として選んだ 6 人が延べ 10 人、37 日間キャンプを楽しむことができた。

実施月：夏キャンプ 8月17~19日：2泊3日2人/1泊2日1人  
冬キャンプ 12月26~30日：4泊5日4人  
春キャンプ 3月26~30日：2泊3日3人

場所：国際自然大学校日光霧降校

### ○学習支援

Your Place ひだまりで毎週土曜日を中心に実施。地元の学習塾「S&Sセミナー」から協力の申し出があり、協力体制をとりながらの取り組みが続いている。受験生に関しては平日夜間に塾の実習室を開放していただき、自由に通い自習できるようになっている。中学3年生は3人全員が無事に地元県立高校への進学を果たした。

実績：中学3年生3人、中学1年生1人

<p>支援の必要な子どもと母子の居場所事業</p>	<p><b>&lt;ひだまりイベント&gt;</b>  <b>○内部向けイベント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月22日 隠れ三滝ハイキング（日光市霧降）7人+職員6人</li> <li>・7月28日 川遊び（霧降川常滑）12人+職員5人</li> <li>・8月1日 プール（日光市霧降大江戸温泉）14人+職員6人</li> <li>・8月9~10日 高德ひだまり夏合宿 8人+職員6人</li> <li>・8月22日 BBQの予定だったが台風の為中止。代わりに、ご招待いただいてかき氷を頂く 9人+職員5人</li> <li>・12月22日 クリスマス会</li> </ul> <p><b>○外部イベント参加</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9月3日 ボランティア市民活動フェスタ（今市文化会館）3人</li> <li>・11月12日 JA祭り+人形劇鑑賞（JAかみつが他）3人</li> <li>・12月11日 大原あかねふれあい交流会（藤原）2人+職員3人</li> </ul>	
---------------------------	---	--

事業内容	日 時	実 施 場 所	件 数	金 額
社会的自立を目指す母子のステップハウス事業	7/13~8/12の 31日間	高德&YourPlace ひだまり 高德ひだまり	2件延べ40日間	295,359
	2/8~16の9日間	事 業 実 施 内 容		
	<p>1件は、若年出産の母子を受け入れた。母が、実家で子育てをしたくないとのことで出産後すぐ入所、生活保護受給につなぎ、祖母に時々通ってもらいながら育児を行った。</p> <p>1件は、行き場のない母子が9日間入所、行き先が整ってすぐ退所した。入所の間、3人の子に対しては居場所の子同様に関わりを持ち、不安の中にいる母子を助けた。</p>			

その他の動き

事業内容	実施内容
① 総会、理事会の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総会 5月28日 第11回通常総会</li> <li>・理事会 4月28日 第1回理事会（総会議案、キッズルーム）</li> <li>5月28日 第2回理事会（母子の居場所運営基金取り崩し）</li> <li>12月7日 第3回理事会（キッズルーム、役員の増員）</li> </ul>
② 通信の発行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月1日 「だいじょうぶ通信 20号」</li> <li>・9月15日 「だいじょうぶ通信 21号」</li> <li>・2月10日 「だいじょうぶ通信 22号」</li> </ul>
③ 講演会、研修への参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月5日 ファミリーホーム全国大会 2人</li> <li>・11月1・3日 子育て支援員研修 1人</li> <li>・11月3日 日光市DV・児童虐待防止講演会 「安心できる家族をつくるために～DVと虐待防止から学ぶ」7人</li> <li>・11月25・26日 J a S P C A N第22回学術集会全国大会おおさか大会 4人</li> <li>・12月10・11日 専門里親更新研修 2人</li> <li>・2月4日 日光市引きこもり相談センター講演会 3人</li> </ul>
④ 他団体との交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの虐待防止ネットワークとちぎ加盟</li> <li>・10月1～2日 第5回チャリティーウォーク 56.7お手伝い</li> <li>・12月4日 ワカモノフェスタ分科会出展</li> <li>・12月5日 放課後デイサービス事業所トムソーヤ開所式参加</li> </ul>
⑤ 各種委員会等への参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日光市子どもの権利委員会 1人</li> <li>・日光市要保護児童対策地域協議会委員 3人</li> <li>・日光市福祉のまちづくり推進委員会委員 今市地区委員 1人</li> <li>・日光市ひきこもり連絡協議会委員 1人</li> <li>・栃木県上都賀地区ふれあい学習推進会議委員 1人</li> <li>・栃木県「じぶん未来学」企画委員 1人</li> <li>・共同募金会歳末たすけあい助成（日光市域）事業選考委員 1人</li> <li>・第11回全国校区・小地域福祉活動サミットin NIKKO 企画運営委員 1人</li> <li>・「広がれこども食堂の輪！」全国ツアーin栃木実行委員 1人</li> </ul>
⑥ 資金集め	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月7日 寄付ハイク参加 6人</li> <li>・10月22日、11月19日、1月21日 チャリティーボードゲーム会</li> <li>・11月23日 チャリティータイ料理体験会</li> <li>・12月24日 子どもの貧困撃退のチャリティー サンタ de ラン参画</li> </ul>

⑦ 物資の提供	<p>○バザー用、育児支援家庭、母子の居場所「ひだまり」宛てに食品や日用品などの生活物資を寄贈いただいた。</p> <p>今回、特にとちぎコープ日光センターの協力で、家庭で使わなくなった日光市内の小・中・高校指定のジャージ、制服を組合員に募集し、多数のジャージ、制服を提供いただいた。おかげで、多くの学校について在庫が持て、新入学生への提供がスムーズに行えた。衣類の提供実績が上がっているのはそのためである。</p> <p>&lt;物資提供をいただいた皆様&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人有志の皆様</li> <li>・団体：フードバンク宇都宮（とちぎボランティアネットワーク） 「協同労働の協同組合」法制化を目指す市民会議・とちぎ フードバンク日光 カーブスショッピングプラザ日光（フードドライブ） 東京リアルリンクアネックス 資生堂ジャパン コスメ海外事業部 とちぎコープ組合員の皆様 チャイルドラインの皆様、他</li> </ul> <p>○生活困窮家庭への物資支援実績（合計 64 家庭に、延べ 204 件支援した。）</p> <p>&lt;内訳&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乾麺や調味料、缶詰、レトルトなどの食品 40 件</li> <li>・お米 (293 kg) 30 件</li> <li>・衣類 56 件</li> <li>・入学&amp;進学準備品（学用品） 24 件</li> <li>・その他 29 件</li> </ul>
⑧ その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月8日 国際ソロプチミスト日本財団社会ボランティア賞受賞式</li> <li>・7月21日 キッズルーム開所式 20人+職員15人</li> </ul>

(2) その他の事業

事業名	事業内容	実施日時	支出
「だいじょうぶ」グッズやその他の物品の販売事業	バザーなどの企画・運営	<p>○バザー（今年度より有志実行委員会にて実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あかね祭り 9月25日 10人</li> <li>・シルバー祭り 3月12日 11人</li> </ul>	0